

# 第24回 国土交通中部地方有識者懇談会

平成26年10月7日(火) 15:00～  
KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

## 議 事 次 第

### I. 第3次まんなかビジョン 基本理念（案）

### II. その他

#### 【配付資料】

- ・ 議事次第、配席図、出席者名簿
- ・ 

資 料 1
-------

 第3次まんなかビジョン 基本理念（案）



## 第24回 国土交通中部地方有識者懇談会 出席者

平成26年10月7日(火)15:00～  
KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

### 【懇談会委員】 (50音順、敬称略、◎：座長)

- 上田 達郎 トヨタ自動車(株) 総務・人事本部本部長 常務役員 (欠 席)
- 奥野 信宏 中京大学 理事 総合政策学部教授
- 河上 敢二 熊野市 市長
- 小出 宣昭 中日新聞社 代表取締役社長
- 後藤 康雄 静岡県商工会議所連合会 会長  
はごろもフーズ(株) 代表取締役会長 (欠 席)
- ◎ 須田 寛 東海旅客鉄道(株) 相談役
- 中村 幸昭 (株)鳥羽水族館 名誉館長
- 林 良嗣 名古屋大学 大学院環境学研究科  
附属持続的共発展教育研究センター長・教授 (欠 席)
- 日置 敏明 郡上市 市長
- 東 恵子 東海大学 海洋学部環境社会学科教授
- 水尾 衣里 名城大学 人間学部人間学科教授 (欠 席)
- 水谷 研治 名古屋大学 客員教授、中京大学 名誉教授
- 大和 弘明 (株)日本政策投資銀行 東海支店長

### 【主催者】

(中部地方整備局)  
八鍬 隆 局長  
海野 修司 副局長  
谷脇 暁 副局長

(中部運輸局)  
野俣 光孝 局長  
江角 直樹 局次長

## 第3次まんなかビジョン 基本理念(案)

平成26年〇月〇日  
国土交通中部地方有識者懇談会

●まんなか懇談会の経緯

- ・2005年 ポスト万博宣言「国土の健康回復を実現する中部のものづくり」緊急提言
- ・日本の失われた20年、中部においては産学官民が連携協力して着実なインフラ整備、ものづくり中部の地位を確固たるものに

●まんなかビジョン見直しの背景

- ・急激な人口減少・超高齢化、2011年東日本大震災、頻発する自然災害、迫り来る巨大災害の切迫、インフラ老朽化問題の深刻化など
- ・リニア中央新幹線計画の具体化
- ・新興国の台頭、国際競争の激化、グローバリゼーションの進展、大交流時代

●中部の優位性

- ・スーパー・メガリージョンの要  
（東京一極集中からの脱却、地方への人口環流、首都圏機能の受け皿）
- ・ものづくりと歴史、文化、産業
- ・多種多様な自然環境・景観、観光資源
- ・地域コミュニティ、人と人のつながり、対流の拠点

●中部の目指すべき方向

- ・（安全安心）いかなる災害にもしなやかで強い中部
- ・（産業競争力）活力溢れる中部
- ・（交流連携・観光）出会い豊かな中部
- ・（環境・景観）自然と共生の中部
- ・（暮らし）住み続けたいくなる中部

●2050年を見据えた中部の将来像

まんなかで日本をリード—国際戦略の拠点となる中部—

平成26年10月〇〇日

国土交通中部地方有識者懇談会  
座長

# 第3次まんなかビジョン 基本理念(案) 目次

## 第1章 日本の発展を支えてきた中部

### 1－1. 中部の地域づくりの歩み～ものづくり中部の成り立ちと変遷～

- (1)近世(幕藩体制～太平の世)  
防災から生まれた名古屋城下町や、街道・宿場町など当地の地域構造のルーツの誕生
- (2)近代(明治維新～戦前)  
交通革命とともに、ものづくり中部の礎が築かれる
- (3)現代(戦後～高度成長期)  
第2の交通革命・水の恩恵、ものづくり中部が日本経済を牽引
- (4)新たな中部(2005年～)  
中部国際空港開港、愛知万博開催等、中部の国際化への展開

### 1－2. 時代の変遷を経た現在の中部の地域力

- (1)社会経済 ～日本経済を牽引するものづくり地域～  
卓越したものづくり産業集積／農業の先進地域
- (2)地域構造 ～多様な都市がつながり、物流・人流の中心を担う中部～  
多極分散型の重層的な地域構造／物流・人流の要衝／自動車への高い依存

## 第2章 我が国や中部を取り巻く時代の潮流と課題

### 2－1. 我が国および中部を取り巻く時代の潮流

- (1)急激な人口減少・少子化、高齢化
- (2)グローバル化の進展、国際観光交流の拡大
- (3)巨大災害の切迫、自然災害の頻発・激甚化、インフラの老朽化
- (4)食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題、自然環境問題

### 2－2. 中部の特徴(強み)と課題

#### 【安全・安心】

- ・巨大地震や集中豪雨、台風などによる風水害や土砂災害など自然災害に直面する中部
- ・日本の大動脈を担う中部ゆえに、大規模災害による社会経済活動の停滞への懸念

#### 【産業競争力】

- ・日本の貿易黒字を支える輸出型ものづくり産業の集積
- ・国際競争にさらされるものづくり産業の強化

#### 【交流連携・観光】

- ・(強み)自然環境、産業遺産、街道文化、世界遺産などが広域に分布する多種多様な資源
- ・ものづくり産業以外での国際性が発展途上

#### 【環境・景観】

- ・活発な経済活動にともなう様々な環境問題／田園風景や歴史的まちなみの景観保全・保護

#### 【暮らし】

- ・(強み)地域コミュニティが強く、子供を産み育て、働きやすく、暮らしやすい地域環境
- ・地域間格差、地方の衰退との対峙／異文化共生への挑戦

## 第3章 新たに発展段階を迎える中部

- (1)第1ステージ(2005年～)  
～中部の魅力を世界に発信(愛知万博・COP10・昇龍道プロジェクト)／陸海空ネットワーク拡充～
- (2)第2ステージ(2020年～)  
～東京オリンピック・パラリンピック／新たな大交流時代の本格化  
／つながる中部の東西軸・南北軸・環状軸～
- (3)第3ステージ(2027年～)  
～リニア時代の到来(品川～名古屋開業)／首都圏・名古屋圏が一体化～
- (4)第4ステージ(2045年～)  
～世界最大の先進的なスーパーメガリージョン誕生  
／大都市圏の一体化による国際競争力の向上／要をなす中部～

## 第4章 中部の将来像

### 4－1. 中部の責務と役割

- (1)大規模自然災害と対峙してきた知恵と経験を中部の未来に継承
- (2)スーパーメガリージョンの誕生、日本の交流拠点の要衝として、日本の活力を牽引
- (3)ものづくりの伝統・技術集積を活かした研究・開発・知の中核圏域を形成
- (4)陸海空のネットワークを活かした国内外との重層的な交流舞台の形成
- (5)人や地域のつながり、ゆとりある環境を活かした先進的な暮らしやすい地域の形成
- (6)戦国の時代から先進気鋭・ものづくりにいきづく歴史・文化・産業を、誇りと愛着とともに次代に継承
- (7)3,000m超の山岳から海洋に至る多様で豊かな自然環境・景観の保全と活用

### 4－2. 2050年を見据えた中部の将来像

#### まんなかで日本をリードする中部 ～国際戦略の拠点となる中部～

- (1)いかなる災害にもしなやかで強い中部 ～安全安心な国土に支えられた地域～
- (2)活力溢れる中部 ～次代も我が国経済を牽引～
- (3)出会い豊かな中部 ～国内外との交流連携・文化創造の舞台～
- (4)自然と共生の中部 ～環境・景観の先進地域への挑戦～
- (5)住み続けたくなる中部 ～人と人がつながり暮らしやすい地域～

### 4－3. 将来像を実現するための基本戦略

- (1)基本戦略1:南海トラフ巨大地震など大規模災害への備え、安全安心な地域づくり
- (2)基本戦略2:ものづくりを基軸とした「人」「価値」を育む地域づくり
- (3)基本戦略3:スーパーメガリージョンの要となる地域づくり
- (4)基本戦略4:産業と共存し特色ある自然環境・景観を備えた地域づくり
- (5)基本戦略5:濃密で重層的な対流で人と人がつながり心豊かに生きる地域づくり

## 第5章 9つの地域の連携、融合が創り出す中部

- ① 駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域
- ② 南信から三遠を結ぶ地域
- ③ 名古屋都市圏一帯を取り巻く地域
- ④ 東海と北陸を結ぶ地域
- ⑤ 東海と近畿を結ぶ地域
- ⑥ 伊勢湾・三河湾流域
- ⑦ 富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域
- ⑧ 伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域
- ⑨ 長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域

## 1-1. 中部の地域づくりの歩み ～ものづくり中部の成り立ちと変遷～

### ■近世(幕藩体制～太平の世)

防災から生まれた名古屋城下町や、街道・宿場町など当地の地域構造のルーツの誕生

- ▶清洲越・名古屋城下町の誕生 ▶東西に連なる中部のまちは街道・宿場町から発展
- ▶独自の伝統文化や技術を育んだ「まち」 ▶御囲堤・輪中、洪水との闘い、水源整備と新田開発

※清洲越:家康が天正地震(1586年)で壊滅的な打撃を受けた清洲から地盤が堅固で小高い丘の那古野に遷府

### ■近代(明治維新～戦前)

交通革命とともに、ものづくり中部の礎が築かれる

- ▶名古屋駅・名古屋港・中川運河 ▶民活・四日市港 ▶鉄道・海運による物流網構築、ものづくりの胎動 ▶水の活用、大規模水路、農業振興 ▶明治大改修・木曾三川分流工事
- ▶下水道整備、衛生環境整備 ▶遅れをとった道路整備

### ■現代(戦後～高度成長期)

第2の交通革命・水の恩恵、ものづくり中部が日本経済を牽引

- ▶名古屋の戦災復興、防災への拘り ▶新幹線・高速道路・港湾 ▶新たな交通・物流体系の構築 ▶水の恩恵、ものづくりを下支え、水力発電エネルギーの供給源 ▶伊勢湾台風・七夕豪雨・東海豪雨など繰り返される水害 ▶公害克服と環境技術

### ■新たな中部(2005年～)

中部国際空港開港、愛知万博開催等、中部の国際化への展開

- ▶愛・地球博 ▶陸海空ネットワーク ▶中部国際空港 ▶名古屋港、我が国唯一の完全IT自動化コンテナターミナル・大深度コンテナバース ▶伊勢湾岸道、東海北陸道、東海環状道、新東名高速等道路ネットワーク

## 1-2. 時代の変遷を経た現在の中部の地域力

### ■社会経済 ～日本経済を牽引するものづくり地域～

#### ●卓越したものづくり産業集積

- ▶自動車(製造品出荷額等シェア57%)・航空機産業(製造品出荷額等シェア65%)▶名古屋港は我が国の貿易黒字の稼ぎ頭(全国最大の黒字額5.8兆円)

#### ●農業の先進地域

- ▶用水路建設が農地開発を後押し▶日本でも有数の農業先進地

### ■地域構造～多様な都市がつながり、物流・人流の中心を担う中部～

#### ●多極分散型の重層的な地域構造

- ▶先進都市名古屋をはじめ、製造業をメインとした伊勢湾沿岸の産業都市、伝統文化や技術を引き継ぐ高山や関、瀬戸、歴史の趣を醸し出す熊野や白川郷、豊田足助など多種多様な特徴を有する多様なまちや地域が広く分布

#### ●物流・人流の要衝

#### ●自動車への高い依存

## 2-1. 我が国および中部を取り巻く時代の潮流

### (1) 急激な人口減少・少子化、高齢化

- 江戸時代から続けられてきた新田開発など、国土への働きかけによる国力増強に合わせ人口も増加、これからは類を見ない人口減少社会へ
- 2050年人口推計9,700万人、異次元の高齢化率4割、高齢者は1.3倍増、生産労働人口は4割減
- 現在の居住地の6割で人口が半減以下、さらに1/3(全体の2割)では無居住化するとの推計(国交省)

### (2) グローバリゼーションの進展 国際観光交流の拡大

- 新興国の成長による激化する国際競争
- ユーラシアダイナミズム・東アジアやロシアにおける経済活動の活発化
- ものづくりのグローバル化
- 拡大する北東アジア、東南アジア地域の国際観光市場、LCC市場が航空需要を拡大
- 訪日外国人旅行者 2020年目標2,000万人、これを通過点にさらに高めへの戦略的な取組

### (3) 巨大災害の切迫、自然災害の頻発・激甚化、インフラの老朽化

- 南海トラフ巨大地震や首都直下地震、30年以内の発生確率70%、甚大な被害想定、国家存亡の危機  
※南海トラフ巨大地震、被害想定死者数は最大32万人・被害想定額は最大220兆円
- 温暖化に起因、集中豪雨の頻発、激甚化する風水害や土砂災害、高潮災害、火山噴火災害、スーパー伊勢湾台風
- 高度成長期の時代ニーズに応え集中整備したインフラの老朽化が深刻

### (4) 食料・水・エネルギーの制約、地球環境問題、自然環境問題

#### 【世界の動向】

- 世界の人口は2050年までに90億人に到達
- 世界的な食料危機に伴う食料不足
- 今後100年で最大4.8℃の地球温暖化の進行

#### 【国内の動向】

- 社会経済活動の発展に伴う様々な環境負荷の増大
- 水資源やエネルギーの確保への懸念

# 第2章 我が国や中部を取り巻く時代の潮流と課題

## 2-2. 中部の特徴(強み)と課題

### 安全・安心

- **巨大地震や集中豪雨、台風などによる風水害や土砂災害など自然災害に直面する中部**
  - ▶ 南海トラフ巨大地震や直下型地震など大規模地震災害の切迫／スーパー伊勢湾台風や高潮災害の恐れ／富士山や伊豆東部火山群、御嶽山など活火山噴火災害の恐れ
  - ▶ 沿岸部を中心に主要な都市や生産拠点などが立地／濃尾平野は我が国最大となる395km<sup>2</sup>のゼロメートル地帯を有する沖積平野／構造線や断層などに起因する脆弱な地盤／木曾三川、安倍川など日本有数の急勾配・急流河川
- **日本の大動脈を担う中部ゆえに、大規模災害による社会経済活動の停滞への懸念**
  - ▶ 高速道路や新幹線など日本経済の根幹をなす東西大動脈の寸断への懸念
  - ▶ 高速道路の未開通区間の存在、主要な地域を結ぶ高速アクセスが整備途上

### 産業競争力

- **ものづくり産業に特化した産業構造**
  - ▶ サービス産業などの厚み拡大、社会情勢による社会経済活動への影響の懸念
  - ▶ 輸出特化型の産業特性
- **ものづくりのグローバル化、国際的な産業機能の集積誘導、資源国家ではないが故の高付加価値化への挑戦**
  - ▶ 製造業の海外生産比率が高まる中(2012年度末で過去最高)で、為替リスクや技術流出リスク、新興国の発展などにより国内回帰の動きも予測
- **ゼロ水(危機的な渇水)への備え**
  - ▶ 製造品出荷額等シェア25.1%、農業産出額シェア11%と、ものづくりや農業などの分野で水の恩恵を受けてきた中部、愛知県域などで頻発する渇水被害
- **エネルギー危機への適切な対応**
  - ▶ 中部管内の9割以上の電力供給を担う火力発電(2013年度で約94%)の施設は伊勢湾・三河湾に集中して立地している。
- **働き手・担い手の確保、人材育成**
  - ▶ 産業経済活動を支える生産年齢人口の減少(2040年までに約300万人(27%)の減少)に対する働き手の確保と取り込み等の対応、及び伝統的な技術の伝承などの人材育成

### 交流連携・観光

- **(強み) 訪日外国人旅行者も注目する、中部ならではの多種多様な資源、自然環境や産業遺産、世界遺産など**
  - ▶ 3,000m級の中部山岳から盆地や里山、海洋など多様な自然環境／豪雪地帯から温泉、古都、先進的な都市などの多様な生活文化を醸し出す「まち」／歴史的文化的価値に優れた富士山・熊野古道・白川郷や寺社仏閣／特色有る地質・地形を活かしたジオパーク／世界農業遺産にも選ばれた静岡茶草場農法
  - ▶ ものづくり産業の系譜を体感できる産業遺産や産業観光資源
- **(強み) 中部には街道文化を醸し出す「まちなみ」や伝統文化・技術などにうら打ちされた豊富な資源**
  - ▶ 伊勢、熊野などの神・仏道文化／妻籠宿、馬籠宿など旧宿場町や旧街道／名古屋、駿府、犬山、松本などの城下町／高山、関、亀山、豊田足助などの古い街並み
  - ▶ からくり、木工技術、刃物、やきもの、和紙、染め物、水引などの伝統工芸・技術
  - ▶ 山海資源や醸造技術などを活用した独特な食文化や、海女や忍者など地域特有の文化
- **国際性は発展途上、後塵を拝する中部、動き始めた昇龍道**
  - ▶ 中部国際空港利用の訪日外国人の全国シェアは5%(成田・羽田国際空港54% 関西国際空港22%)／訪日外国人延べ宿泊者数でも中部のシェアは8%／外資系企業の立地では中部は2%(首都圏に約90%)に過ぎない
  - ▶ 中部圏・北陸圏の官民が連携した昇龍道プロジェクト(昇龍道9県の訪日外国人延べ宿泊者数 2011年180万人→2013年340万人 2ヶ年で倍増)

### 環境・景観

- **活発な経済活動などによる様々な環境問題**
  - ▶ 自動車交通の集中による慢性的な交通渋滞、騒音、排ガスの問題、開発に伴う自然環境への影響、ごみ排出量の増加など
  - ▶ 地盤の脆弱さにも起因する土砂流出・堆砂によるダム機能の低下
- **伊勢湾・三河湾といった閉鎖性水域の水質汚濁**
  - ▶ 東京湾、大阪湾に比べて低いCOD環境基準達成率(伊勢湾・三河湾は達成率60%未満)、全国平均78%に比べ68%と低い下水道整備率(2014年時点)
  - ▶ 干潟、浅場、藻場の減少
- **(強み) 良好な自然景観、まちなみを有する**
  - ▶ 高山、亀山、犬山などの歴史的なまちなみ／丸山・千枚田などの良好な田園風景／富士山麓などの美しい邑(むら)景観

### 暮らし

- **(強み) 地域コミュニティが強く、子供を産み育て、働きやすく、暮らしやすい地域環境**
  - ▶ 名古屋圏の合計特殊出生率は1.47(首都圏1.28、近畿圏1.33)、三世帯世帯率は約10%(首都圏5.0%、近畿圏5.2%)と高く、強い地域コミュニティと人のつながり、子供を産み育てやすい地域
  - ▶ 首都圏、近畿圏に比べて通勤時間が短く(平均通勤時間 中部28分 首都圏45分 近畿圏35分)、都市と中山間地が近接、豊かな自然環境に恵まれ、住まいにゆとりあり、暮らしやすい地域環境
- **地域の活力衰退と地域間格差の拡大**
  - ▶ 中山間地域における人口流失や人口減少、高齢化による活力低下が進行
  - ▶ 将来人口推計、他の圏域より人口半減や無居住化となる地域の比率は5割と全国平均6割より低いが、危機的な状況に変わらない
  - ▶ 中山間地域での担い手の減少や増加する耕作放棄地
- **外国人居住者との共生**
  - ▶ ものづくり産業を支える外国人居住者が多いという地域特性



# 第3章 新たに発展段階を迎える中部 ～高速交通ネットワークが切り拓く、これからの中部～

中部は明治以降、交通革命とともにものづくりの基盤が形成され、戦後の高度経済成長期には、ものづくりが日本経済を牽引。その後の低成長期にも陸海空ネットワークの拡充を促進し、2005年の愛知万博や、2010年のCOP10開催を契機に、中部の魅力を世界に発信し続けてきた。

この2005年を新たな中部の第1ステージと捉え、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とした大交流時代の本格化を第2ステージ、2027年リニア名古屋開業で東京圏と名古屋圏が40分で結ばれる、いわゆる地下鉄圏域となる時代を第3ステージ、さらには2045年のリニア全線開通、**リニアと鉄道、空港、道路が連携した、先進的で世界最大の経済圏「スーパーメガリージョン」**が形成される時代を第4ステージと捉え、それらの新たなステージが今後、社会情勢の変化とともに展開されていく。

## 第1ステージ(2005年～)

～中部の魅力を世界に発信(愛知万博・COP10・昇龍道プロジェクト)／陸海空ネットワーク拡充～

## 第2ステージ(2020年～)

～東京オリンピック・パラリンピック／新たな大交流時代の本格化／つながる中部の東西軸・南北軸・環状軸～

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックは安全安心な日本を世界に発信、世界から多くの訪日外国人を迎え入れる大交流時代の本格化
- 主要な高速道路ネットワーク完成、空港や港湾の連携強化、大交流時代を支える国際的なゲートウェイ

## 第3ステージ(2027年～)

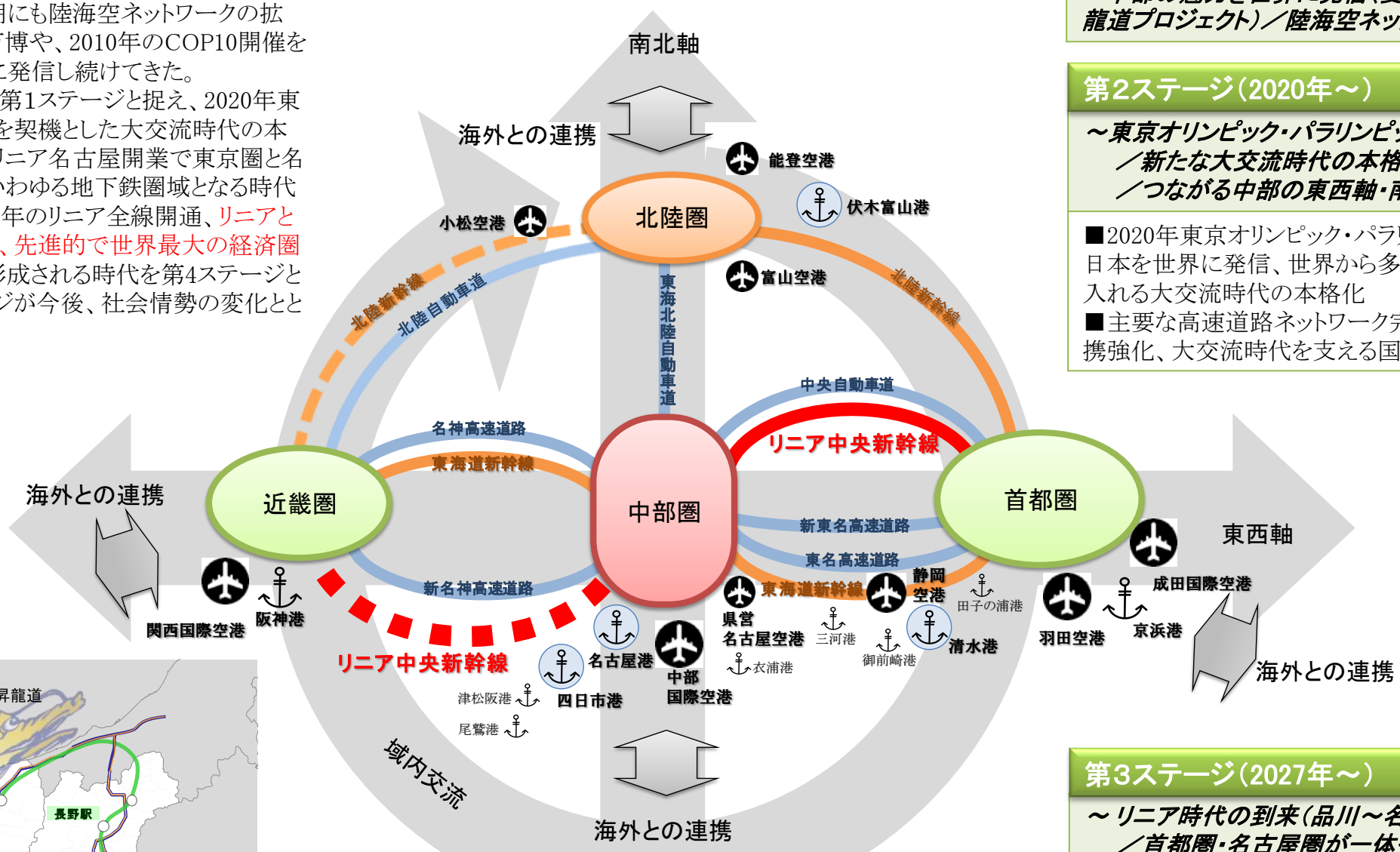
～リニア時代の到来(品川～名古屋開業)／首都圏・名古屋圏が一体化～

- 首都圏と名古屋圏が40分で結ばれたリニア大都市圏が実現
- 新たなライフスタイルを創出するステージ

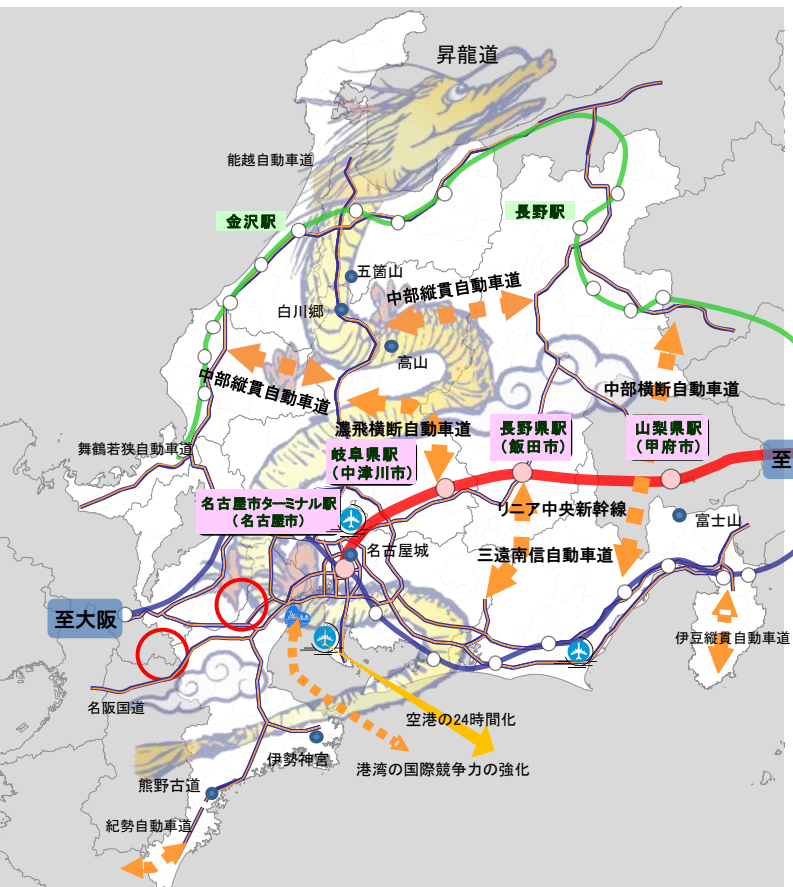
## 第4ステージ(2045年～)

～世界最大の**先進的なスーパーメガリージョン**誕生／大都市圏の一体化による国際競争力の向上／要をなす中部～

- 6000万人の三大都市圏が一体となった世界最大のメガリージョンを形成
- 高速交通ネットワークが支え、安全安心性が向上した、国際競争に立ち向かう日本



### ■ 中部・北陸の将来ネットワーク



## 4-1. 中部の責務と役割

中部は戦国の時代から、我が国を先導する新鋭が誕生した地として、さらには豊かな資源をルーツに発展したものづくり技術が育まれた地域であり、明治に入り鉄道や海運などの交通革命を取り込みつつ、さらに戦後は新幹線や高速道路など第2の交通革命や水の恩恵を受けて、ものづくり中部の地位を確固たるものにしてきた。

これから迎える人口減少・少子高齢化社会、またグローバルな大交流社会においても、中部は歴史や伝統を次代に継承し、脈々と受け継がれてきた先進性やものづくりから派生する精神や文化を活かし、これからも我が国経済を牽引していくために様々な責務と役割を有している。

濃尾大地震、伊勢湾台風、東海豪雨をはじめ、幾度となく発生した様々な大規模災害と対峙してきた「防災が原点」の中部は、古くから培った防災まちづくりの知恵と経験を未来に継承し、今後いかなる災害が発生しても、社会経済活動を停滞させない、災害に屈しない地域を構築する。**安**

大規模自然災害と対峙してきた知恵と経験を中部の未来に継承

国内に比類無き多種多様な自然環境を有する中部の特性を活かすとともに、ものづくり技術によって培われた環境技術を最大限発揮し、引き続き自然環境や景観を保全・活用していく。**環**

3,000m超の山岳から海洋に至る多様で豊かな自然環境・景観の保全と活用

戦国時代から我が国を先導し、現代社会に通じる歴史発祥の地であるとともに、ものづくりの技術にいきづいたDNAを様々な歴史・文化・産業に継承しており、それらの精神的な誇りや愛着心を、次代へと継承していく。**交 暮**

戦国の時代から先進気鋭・ものづくりにいきづく歴史・文化・産業を、誇りと愛着とともに次代に継承

人や地域のつながり、ゆとりある環境を活かした暮らしやすい地域の形成

都市と中山間地、海・山・川等の大自然が隣接し、ゆとりと利便性の適度なバランスを有する中部の地域特性を最大限活用し、地域コミュニティや家族の緊密な絆とともに、女性、高齢者、若者など誰もが豊かに暮らすことが出来る地域を形成していく。**暮**

リニア中央新幹線が創り出す先進的なスーパーメガリージョンの要として、高速交通ネットワークのインパクトを活かし、また、太平洋と日本海の2面活用した日本のあらゆる対流の要衝として、引き続き日本の活力を牽引する。**産 交**

スーパーメガリージョンの誕生、日本の交流拠点の要衝として、日本の活力を牽引

ものづくりの伝統・技術集積を活かした研究・開発・知の中核圏域を形成

古から伝わる伝統技術を活かすとともに、世界レベルに発展した自動車、航空機等ものづくり技術を集積させ、研究・開発の中核圏域を形成し、産業を発展させてきた中部の知恵や賢さを、地域づくりにも展開していく。**産 交**

陸海空のネットワークを活かした国内外との重層的な交流舞台の形成

中部が有する国際空港、国際港湾や高速交通ネットワークを活用し、国際的なビジネス交流、観光交流の拠点化を図り、国内の対流を活性化させるとともに、さらには国際交流の主たる舞台を形成していく。**交**

### 凡例

- 安** : 安全・安心
- 産** : 産業競争力
- 交** : 交流連携・観光
- 環** : 環境・景観
- 暮** : 暮らし



## 4-2. 2050年を見据えた中部の将来像

中部は様々な責務と役割を果たすことで、人が対流し、古から受け継ぐ歴史・文化・伝統・産業を継続発展させた、新たな価値を生み出す個性と魅力ある圏域を形成、日本のまんなかから世界のまんなかへと飛翔する「まんなかで日本をリードする中部～国際戦略の拠点となる中部～」を将来像に掲げ、「いかなる災害にもしなやかで強く、活力に溢れ、出会い豊かに、自然と共生し、住み続けたいくなる中部」を目指します。

### まんなかで日本をリードする中部 ～国際戦略の拠点となる中部～

活力溢れる中部  
(次代も我が国経済を牽引)

出会い豊かな中部  
(国内外との交流連携・文化創造の舞台)

自然と共生の中部  
(環境・景観の先進地域への挑戦)

住み続けたいくなる中部  
(人と人がつながる暮らしやすい地域)

いかなる災害にもしなやかで強い中部  
(安全安心な国土に支えられた地域)

いかなる災害にもしなやかで強い中部  
安全安心な国土に支えられた地域

活力溢れる中部  
次代も我が国経済を牽引

出会い豊かな中部  
国内外との交流連携・文化創造の舞台

自然と共生の中部  
環境・景観の先進地域への挑戦

住み続けたいくなる中部  
人と人がつながり暮らしやすい地域

目指すべき地域づくりの方向

● 全ての社会活動・地域づくりの基盤となる災害対策を強力に推進し、安全で安心な中部を形成

● 人口減少下でも、ものづくりをはじめ国際的に強い産業競争力ある中部を形成

● 中部独自の歴史文化・産業を活かし、日本のまんなかで、魅力があふれ賑わいと活気ある中部を形成

● 太平洋側と日本海側の一体化による2面活用型の中部・北陸圏域の形成

● 環境負荷を軽減した自然環境の回復と、地域特性を活かした美しい風土・風景を創造する中部を形成

● 誰もがどこでも生き活きと快適に暮らせ、愛着を持てる中部を形成

目指すべき地域づくりを実現するための基本戦略

#### 基本戦略1: 南海トラフ巨大地震など大規模災害への備え、安全安心な地域づくり

- 防災は中部の原点 災害には上限がないという東日本大震災の教訓
- ◇ 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議における取組の加速・進化
- ◇ 粘り強くしなやかな国土の構築
- ◇ 激甚化する自然災害への柔軟な対応、懸念されるスーパー伊勢湾台風への対応
- ◇ 社会経済活動を寸断させないダブルネットワーク化など代替補完機能の確保
- 老朽化するインフラの長寿命化への取組を促進、インフラを賢く使う
- ◇ 建設産業の担い手の確保・育成

#### 基本戦略2: ものづくりを基軸とした「人」「価値」を育む地域づくり

- ものづくり産業で世界最先端地域を目指す
- ◇ ものづくりを基軸とした人材の確保、育成
- ◇ 産業の高度化、厚みの拡充
- ◇ ものづくり産業を活用した交流の拡大
- ◇ 水の恵みを享受出来る社会の形成
- 女性や高齢者の社会参画促進、外国人材の活用およびロボット技術導入による効率化促進

#### 基本戦略3: スーパーメガリージョンの要となる地域づくり

- 中部から国土の新たな価値の創出
- ◇ 三大都市圏の一体化に伴い、東京一極集中からの脱却や地方への人口環流、首都圏の機能再配置の受け皿となり行政機能、産業経済機能における中枢機能およびバックアップ機能を担う地域づくり(国土の脆弱性の是正)
- ◇ リニア・鉄道駅・空港・港湾・道路の連携を実現する多モード型の複合交通ネットワークの構築
- ◇ 中部のものづくり技術の中枢圏化を促進し、産学官が連携して、知の創発拠点をつなぐナレッジリンクの拠点形成
- 大交流時代における国内外の広域交流を深める観光交流圏の形成
- 多様な面で発展ポテンシャルを世界に発信
- ◇ 中部を舞台とする先進的な社会システム導入を通じた世界における存在感と影響力の向上
- ◇ 農林水産業の海外展開

#### 基本戦略4: 日本海との緊密な連携による、太平洋側と日本海側の一体性を実現する2面活用型の地域づくり

- ◇ ダイナミックに変化するグローバル経済へ対応した国土の構築
- ◇ ゴールデンルートから昇龍道へ誘う、観光資源・拠点のネットワーク化地域の魅力の磨き上げ
- ◇ 大規模自然災害等に対する国土の安全性の向上
- ◇ 分水嶺を跨いだ自然環境保全への取組の推進

#### 基本戦略5: 産業と共生し特色ある自然環境・景観を備えた地域づくり

- ものづくり技術を応用した良好な環境・景観の形成
- ◇ ものづくり技術から派生する環境技術の活用
- ◇ ものづくり精神を活かした景観づくり、観光地づくり
- 国土の健康を回復する循環型の社会の構築
- 快適で人と環境にやさしい社会の形成
- 美しい風土・風景と良好な景観の創造

#### 基本戦略6: 濃密で重層的な対流で人と人がつながり心豊かに生きる地域づくり

- 中部の重層的な地域構造が対流を呼び起こす地域整備
- ◇ 中部の特性を最大限に発揮する、「コンパクト+ネットワーク」による暮らしやすい地域づくり
- ◇ 産業機能のネットワーク形成
- ◇ 都市圏や生活圏のさらなる連携、融合した、9つの圏域により創り出される中部
- 交通ネットワークにより生みだされる自由時間による多様な生活の実現
- 「道の駅」による拠点の形成
- 農林水産業の維持活性化・高度化
- 若者や女性、高齢者、外国人の心豊かで多様な暮らしの実現
- ICT・ロボット技術を積極的に活用した社会システムの構築

## 4-3. 将来像を実現するための基本戦略

### 基本戦略1：南海トラフ巨大地震など大規模災害への備え、安全安心な地域づくり

**安**：安全・安心 **産**：産業競争力 **交**：交流連携・観光 **環**：環境・景観 **暮**：暮らし

#### ■防災は中部の原点

災害には上限がないという東日本大震災の教訓 **安**

#### ◇南海トラフ地震対策中部圏戦略会議における取組の加速・進化

中部では、甚大な被害が予想される南海トラフ巨大地震への対応として、産学官が連携した「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」（129機関参加 平成26年5月22日現在）が設置され、「中部圏地震防災基本戦略」に基づき平時より対応が進められており、一層の取組を推進することで、中部の防災・減災力向上を図る。

#### ◇粘り強くしなやかな国土の構築

各地方公共団体での国土強靱化地域計画の策定を加速し、中部としての国土強靱化への対応を早急に実施する。地域特性に応じた災害リスクの適切な評価により、ハード・ソフトを適切に組み合わせ、官と民の明確な役割分担のもと、**強靱化への重点的な取り組み**を進めることで、どのような自然災害等に対しても粘り強くしなやかな国土、中部を造り上げる。

#### ◇激甚化する自然災害への柔軟な対応、懸念されるスーパー伊勢湾台風への対応

地球温暖化に伴う気候変動等に伴い、近年、土砂災害や風水害の頻発化、激甚化の傾向がみられるとともに、火山噴火による災害も懸念されることから、災害リスクの把握・分析と情報開示、共有を促進するとともに、**適正な土地利用の促進**により、被害の最小化や未然防止を図る。また、住民相互や地域コミュニティでの共助を促進し、災害に対する地域の安全度を高めていく。さらに、**森林・農地から海岸までの一貫した総合的な土砂管理等、国土の保全対策を推進**する。

#### ◇社会経済活動を寸断させないダブルネットワーク化など代替補完機能の確保

中部は我が国の大動脈である東西国土軸が結節し、我が国の経済を牽引するものづくり産業拠点が集積しているため、大規模自然災害等により甚大な被害がもたらされた場合、我が国の社会経済活動が停滞し、国家存亡の危機を招きかねないことから、東西国土軸のダブルネットワーク化など代替補完機能を確保し、大規模自然災害発生時でも社会経済活動を寸断させることなく、早期の復旧・復興を図る環境を構築する。また、域内における代替性の効かない**名古屋駅等の重要拠点施設**については、いかなる災害においても機能を維持できるような**堅牢化を図る**。このような取組を通じ、**首都圏のバックアップ機能の整備**を進める。

#### ■老朽化するインフラの長寿命化への取組を促進、インフラを賢く使う **安**

高度経済成長期以降に集中的に整備されたインフラの老朽化が深刻化する中、**厳しさを増す財政状況下**において、**インフラの適切な維持管理更新**に取り組み、**長寿命化**対策を施すことで、維持管理更新に係る経費の**トータルコストの縮減・平準化**を図る。また、効率的・効果的な維持管理を図るため、産学官のリソース(予算・人材・技術)を最大限投入し、**メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)の確立**に取組む。

合わせて**既存インフラ**の機能改善並びに、より社会のニーズにあった活用を図り、**賢く使っていく**とともに、新東名高速道路や新名神高速道路、東海環状自動車道、名古屋環状2号線、空港港湾、リニア中央新幹線など、インフラ整備がネットワーク機能の向上をもたらし、中部の**ものづくり産業の生産性向上**や**物流機能の強化**に資する**基幹的な交通インフラの整備**を着実に推進する。

#### ◇建設産業の担い手の確保・育成

財政制約の高まりなどを背景に地域の建設産業が疲弊、ノウハウや技術の継承に支障が生じ技術力の低下が懸念されている。今後、インフラを安全に安心して利用し続けるようにするためには、防災や維持管理更新等の担い手となる建設産業が持続的に発展し、将来にわたって企業の技術力を確保していくことが不可欠。このため、企業にとって「ヒト・モノ・カネ」の投資に値する魅力的な環境整備を図るとともに、将来を担う技術者・技能者の確保・育成に向けた取組を推進する。

### 具体的な取組方策例(主な取組内容)

#### ■防災は中部の原点

災害には上限がないという東日本大震災の教訓

#### ◇南海トラフ地震対策中部圏戦略会議における取組の加速・進化

- ・災害に強いものづくり中部の構築(産業防災・減災対策)
- ・災害に強い物流システムの構築
- ・災害に強いまちづくり(津波警戒区域等を踏まえた市街地の形成)
- ・情報伝達の多層化・充実と情報共有の強化
- ・防災意識改革と防災教育の推進
- ・確実な避難を達成するための各種施策の推進
- ・防災拠点のネットワーク形成に向けた検討(広域防災拠点の整備)
- ・道路啓開(くしの歯作戦)・航路啓開等のオペレーション計画の策定
- ・災害廃棄物処理のための広域的連携体制の整備
- ・関係機関相互の連携による防災訓練の実施(広域的・実践的防災訓練の実施)

#### ◇粘り強くしなやかな国土の構築

- ・国土強靱化地域計画の策定促進
- ・自助、公助、共助の強化による被災時の災害対応力の向上
- ・行政界を越えた広域的な連携体制の構築
- ・津波危険地域等における避難路の確保、海岸堤防等の整備
- ・水門等の自動化・遠隔操作化、効果的な管理運用や排水機場等の耐水化・耐震化等の既存施設の効率的な管理・活用
- ・水力エネルギーの有効活用
- ・グリーンインフラ整備など自然共生に配慮した防災・減災対策の推進
- ・住宅・建築物の耐震化、密集市街地改善

#### ◇激甚化する自然災害への柔軟な対応、想定されるスーパー伊勢湾台風への対応

- ・河川管理施設、海岸保全施設、土砂災害危険箇所等における砂防設備や治山施設の整備
- ・総合治水対策、地すべり対策、下水道整備の推進
- ・土砂災害危険箇所の調査
- ・火山噴火減災対策の推進
- ・オープンデータ・ビッグデータ等を活用した総合的な防災情報の収集・共有
- ・災害リスクに応じたタイムライン(防災行動計画)の策定
- ・土地利用と一体となった土砂災害危険区域、浸水想定区域等の公表・周知徹底による災害リスクの把握、避難路確保、移転促進
- ・地下街における浸水防止、避難確保の推進
- ・災害発生時の的確な情報伝達、警戒避難体制の構築
- ・地域コミュニティとの連携による共助の強化
- ・山林や農地の保全による保水機能の維持向上

#### ◇社会経済活動を寸断させないダブルネットワーク化など代替補完機能の確保

- ・速やかな復興を可能とする事前復興計画の策定
- ・首都圏のバックアップ機能の整備
- ・道路ネットワークによる地域間連携の確保・維持
- ・名古屋駅など重要拠点施設の強固な防災対策の実施

#### ■老朽化するインフラの長寿命化への取組を促進、インフラを賢く使う

- ・各管理者によるインフラ長寿命化計画策定の促進、トータルコストの縮減平準化、メンテナンスサイクルの確立
- ・道路メンテナンス会議などを通して、行政機関が連携したインフラ長寿命化や技術力の向上などへの取り組みの推進
- ・高速道路ネットワークや空港港湾、リニア中央新幹線など基幹的交通インフラの着実な整備
- ・既存ダムの再開発の推進
- ・ICTなど先進技術やシステムを積極的に活用した「スマート・インフラ」の構築
- ・大型車両を誘導すべく経路の指定など、適正な通行並びに利用を促進

#### ◇建設産業の担い手の確保・育成

- ・建設企業が維持管理更新等を担う上で不可欠な入札契約に係る諸制度の改善、並びにPPP/PFIの積極的な活用
- ・積算基準や入札契約制度の見直し等による業務の採算性確保、資格制度の充実、技能労働者を管理・蓄積・活用する仕組みの構築、市民団体等の活用による維持管理の推進 等

## 基本戦略2:ものづくりを基軸とした「人」「価値」を育む地域づくり

### ■ものづくり産業で世界最先端地域を目指す **産 暮 環 交**

当地域はものづくり産業を基軸に、我が国を牽引してきた。今後は、これまでのものづくり産業により培った自動車のみならず、航空機産業やロボット技術などを進展させ、さらにそれらの技術を次代に継承し、我が国のみならず、世界の最先端地域としてさらなる発展をしていく。さらにもものづくりに関わる人・モノ・情報を高密度に交流させ、新たな価値創造を促進するとともに、**ものづくりに立脚した文化創造の拠点**としての地域を形成する。

#### ◇ものづくりを基軸とした人材の確保、育成

中部のものづくりの歴史文化を継承し、**世界最先端のものづくり地域へと発展した匠の技術・ものづくり精神への誇りと愛着**を次代の担い手と共有し、技術を未来へ継承できる**人材を確保、育成**していく。

#### ◇産業の高度化、厚みの拡充

自動車産業や航空宇宙産業等の技術の粋を集積させ、それらの効果的に応用し、ものづくりの新たな付加価値を高めるとともに、**大学や研究開発機関との連携を図り、多様な分野への展開**による当地域の産業構造の重層化を図る。

#### ◇ものづくり産業を活用した交流の拡大

**古の時代から受け継がれる産業技術や産業遺構等**に表れる、**中部のものづくりの系譜ともものづくり技術を支えてきた人々の精神**を、技術交流や産業観光等に取り入れ、中部域内のみならず、国内外の交流促進に寄与していく。

#### ◇水の恵みを享受出来る社会の形成

ものづくり産業や農業に不可欠な水の安定供給による、安定したものづくり地域を構築し、「水の恵みを享受出来る社会」を形成する。また、水資源開発施設の再開発や運用の高度化等を通じて、機能の有効活用を図る。

### ■女性や高齢者の社会参画促進、外国人材の活用およびロボット技術導入による効率化促進 **産**

生産年齢人口が減少していく中で、**女性や高齢者の積極的な登用、外国人材の効果的な活用**を進める。また、当地域が有する高度な**ロボット技術**を活用し、**多面的な産業用ロボット**の導入による**効率的な生産環境**を創出し、多用で豊かな働き方が可能な先進地を形成する。

## 具体的な取組方策例(主な取組内容)

### ■ものづくり産業で世界最先端地域を目指す

愛知県西三河地域や三重県北勢地域等、中部のものづくりを形成している地域の物流支援等に資するインフラの充実を図る。

#### ◇ものづくりを基軸とした人材の確保、育成

- ・中部に集積する技術や知識を活用した人的交流機会の創出
- ・ものづくり産業を中心とした人材育成や技術移転の推進
- ・若者のUIJターンの推進

#### ◇産業の高度化、厚みの拡充

- ・製造業の国内回帰や海外企業の進出に備えた企業集積環境整備
- ・次世代自動車、国産旅客機(MRJ)等の生産拠点、ITSの先進地域としての研究・開発機能の集約促進
- ・ITS技術を活用した安全運転システム
- ・プローブデータ等のビックデータを活用した「賢く使う取組」の推進
- ・開発に柔軟に対応した土地利用の適正化

#### ◇ものづくり産業を活用した交流の拡大

- ・ものづくりをテーマとしたMICEの促進
- ・産業観光資源のネットワーク化および周遊型ツアーの造成
- ・ものづくりの現場の体験型観光コンテンツの積極的な活用

#### ◇水の恵みを享受出来る社会の形成

- ・水源地域の森林保全および森林を守る担い手確保
- ・既存ダムの再開発等の推進
- ・ダム運用の高度化
- ・ダムや堰で確保した水資源の有効活用

### ■女性や高齢者の社会参画促進、外国人材の活用およびロボット技術導入による効率化促進

- ・三世同居を実現する高度なICTを活用したテレワークの活用
- ・スマートシティの形成
- ・ソーシャルビジネス、企業支援に資するインフラの形成
- ・高齢技能者の有するものづくり技術の活用など、高齢者の継続的な社会参画を促す地域整備
- ・外国人居住者と共生、多文化共生社会への取組の推進

## 基本戦略3:スーパーメガリージョンの要となる地域づくり

### ■中部から国土の新たな価値の創出 **交産安**

◇三大都市圏の一体化に伴い、東京一極集中からの脱却や地方への人口環流、首都圏の機能再配置の受け皿となり行政機能、産業経済機能における中枢機能およびバックアップ機能を担う地域づくり(国土の脆弱性の是正)

中部は、高速道と新幹線の双方で二重化、三重化されて首都圏や近畿圏と結ばれ、人流・物流が完全途絶しにくい国土にする必要。このため、首都圏に集中している中央行政機能や本社機能および拠点的な産業経済機能の一部もしくはこれらのバックアップ機能を中部において担うことで、しなやかな国土づくりに貢献すると共に、一極集中がもたらす高コスト構造の是正を図る。

◇リニア・鉄道駅・空港・港湾・道路の連携を実現する多モード型の複合交通ネットワークの構築

リニア中央新幹線により整備される名古屋駅はスーパーメガリージョンのゲートウェイとして、また岐阜県駅や長野県駅はそれぞれの地域への玄関口機能のみならず、名古屋駅とも連携して、リニアの開業効果を中部圏全域、さらには北陸圏にも広める役割を果たすものであり、多モードが結節して高度な乗換が可能な拠点駅となるよう強化を図る。そのため、中部圏の主要空港や港湾との連結機能の強化、また高速道路や広域道路ネットワークとの連結性を高め、主要都市などのネットワークを強化することで、リニアを含む陸・海・空の複合高速交通ネットワークの構築を図る。

◇中部のものづくり技術の中核圏化を促進し、産学官が連携して、知の創発拠点をつなぐナレッジリンクの拠点形成

陸・海・空の複合高速交通ネットワークが形成されることを活かし、中部は当地に蓄積されてきた技術ストックと国内外からの知見が融合する拠点になるとともに、大学・研究開発機関等との緊密な連携により、グローバルなナレッジリンクの拠点となって、世界をリードする先端的な知の創発拠点としての役割を担っていく。

### ■大交流時代における国内外の広域交流を深める観光交流圏の形成 **交**

複合高速交通ネットワークの構築を背景に、中部に広域に展開している観光資源を活かし、国内外からの観光交流を活性化させる。特に、急増するアクティブシニアやアジア圏を中心とする訪日外国人等の誘客を積極的に展開し、我が国における広域観光の要衝地域としていくとともに、国内外の交流連携による文化創造の舞台としても成長させていく。

### ■多様な面で発展ポテンシャルを世界に発信 **交環産**

◇中部を舞台とする先進的な社会システム導入を通じた世界における存在感と影響力の向上

次世代型LRTに代表される先進的な環境技術を活かしたエネルギー技術、地球温暖化への対応や環境共生の取り組み、スマートグリッド等を基盤とする自動・無人の公共交通システムの導入等を積極的に展開し、世界における社会システム先進地域としての先導的な役割を果たす。また、FCVやPHV等の次世代自動車の普及促進や自然エネルギー・再生可能エネルギーの利活用の推進を図り、環境負荷軽減地域としてのモデルを提示していく。

◇農林水産業の海外展開

農業の一大生産地や良質な森林、漁場を有する中部は、多様な高付加価値型の農林水産資源を活かし、世界への流通を促進するとともに、都市部と地方部との交流や訪日外国人との交流を通じた世界ブランドへのステージアップ、さらには6次産業化による世界市場を視座においた新商品の開発を積極的に展開する。

## 具体的な取組方策例(主な取組内容)

### ■中部から国土の新たな価値の創出

◇三大都市圏の一体化に伴い、東京一極集中からの脱却や地方への人口環流、首都圏の機能再配置の受け皿となり行政機能、産業経済機能における中枢機能およびバックアップ機能を担う地域づくり

- ・行政機能ゾーンの土地利用の高度化
- ・オフィス機能、研修機能、物流機能、情報処理機能等における拠点機能の立地誘導

◇リニア・鉄道駅・空港・港湾・道路の連携を実現する多モード型の複合交通ネットワークの構築

- ・名古屋駅のスーパーターミナル化
- ・名古屋駅からの鉄道アクセス40分圏域の拡大
- ・名古屋駅と高速道路の結節性強化及び主要都市を結ぶ道路ネットワークの強化
- ・名古屋駅と中部国際空港間のシームレスな移動環境の実現と一体化
- ・中部国際空港の完全24時間化の促進
- ・名古屋港をはじめとする港湾の国際物流機能の強化
- ・岐阜県駅や長野県駅と道路ネットワーク機能の強化
- ・リニア駅周辺まちづくりによる新たな地域活力創出に向けた取組
- ・人流・物流の拠点となる空港・港湾と、道路のネットワーク機能の強化

◇中部のものづくり技術の中核圏化を促進し、産学官が連携して、知の創発拠点をつなぐナレッジリンクの拠点形成

- ・知の拠点の機能強化
- ・中部と国内外の先端研究拠点等との連携強化と共同研究拠点機能の整備
- ・航空宇宙、次世代産業分野における人材育成のための研修・講座の開催
- ・次世代自動車地域産学官フォーラム等の産学官が連携したフォーラムの継続開催

### ■大交流時代における国内外の広域交流を深める観光交流圏の形成

- ・中部の高速交通ネットワークを活かした都市と農山漁村の交流促進
- ・中部の自然環境や歴史文化などの多種多様な地域資源、観光資源のネットワーク化、ツーリズムや教育への活用
- ・アクティブシニアの観光ニーズの取り込み
- ・訪日外国人旅行者を呼び込む広域観光周遊ルートの形成(地方空港、滞在型、多言語表示、インターネット環境整備、地域の魅力向上など)
- ・中部の海洋と内陸の魅力を活かし、クルーズ船などを活用した海洋型の周遊観光への取組

### ■多様な面で発展ポテンシャルを世界に発信

◇中部を舞台とする先進的な社会システム導入を通じた世界における存在感と影響力の向上

- ・次世代型LRT、先導的タウンモビリティの導入等による都市内交通の負荷軽減
- ・FCVやPHV等の積極的な導入を促すインフラの形成
- ・電力・ガスにおけるスマートメータ導入促進
- ・ITSを積極的に活用した安全運転システム、無人走行車両等による公共交通システムの構築

◇農林水産業の海外展開

- ・中部として連携した海外アンテナショップの出店、マーケティングの取り組み展開
- ・訪日外国人の受け入れと連動した地産地消の推進

## 基本戦略3:スーパーメガリージョンの要となる地域づくり

### ■日本海との緊密な連携による、太平洋側と日本海側の一体性を実現する2面活用型の地域づくり **交****安****環**

#### ◇ダイナミックに変化するグローバル経済へ対応した国土の構築

東アジア諸国や極東地域での経済活動の活発化に伴い、日本海側の貿易が拡大し、メタンハイドレートなど新たなエネルギー開発の面でも日本海側の重要性が増しており、中枢機能が集積した太平洋側との一体的化を図ることで、日本の中央部、またスーパーメガリージョンの要において、太平洋と日本海の2面を活用した国土を構築する。

#### ◇ゴールデンルートから昇龍道へ誘う、観光資源・拠点のネットワーク化地域の魅力の磨き上げ

アジアを中心とした大交流時代を見据え、国際的な観光拠点として内外の観光客の積極的に呼び込み「交流人口」の拡大を図るため、北陸圏を含む中部9県で進められている広域観光周遊の**昇龍道プロジェクトの一層の推進**を図る。昇龍道エリアにおける歴史・文化や産業観光等の観光資源の発掘・磨き上げや外国人旅行者の移動環境、受入環境整備、高速道路や鉄道などによるマルチ・モーダルな周遊ルートの構築などソフト・ハード両面でのネットワーク化を推進し、ゴールデンルートに比肩するエリアを構築する。

さらに、**昇龍道が中部から北陸の南北の交流軸に、中部・北陸から西日本に至る東西の交流軸(エメラルドルート)を繋ぎ、両者が相互に補完し、インバウンドを推進**することで、より魅力的な観光交流圏域を造り上げる。

(※ゴールデンルート:東京～大阪間を、東京都内、箱根、富士山、京都、大阪市内等の日本の主要な観光地を巡る、外国人向けの旅行ルートの総称)

#### ◇大規模自然災害等に対する国土の安全性の向上

東日本大震災では、太平洋側に甚大な被害をもたらされネットワークの機能不全が生じたため、被災のなかった日本海側のネットワークが救助・救援や復旧活動等で全面的に活用された。南海トラフ巨大地震や日本海側における大規模自然災害に対する安全性を高めるため、日本海側との連携を強化し、ネットワークの多重性・代替性を確保することで、相互の安全性、さらには我が国全体の安全性を高めることにもつながる、災害に強い国土構造を実現する。

#### ◇分水嶺を跨いだ自然環境保全への取組の推進

中部は太平洋と日本海の分水嶺を有する地域であり、北陸の水源地を含むことから、日本海側の流域圏との連携により、水源地の森林環境整備などの自然環境保全を推進する。

## 具体的な取組方策例(主な取組内容)

### ■日本海との緊密な連携による、太平洋側と日本海側の一体性を実現する2面活用型の地域づくり

#### ◇ダイナミックに変化するグローバル経済へ対応した国土の構築

- ・北陸圏からのリニア中央新幹線へのアクセシビリティ向上によるネットワーク強化
- ・日本海側航路と太平洋側航路の連結性向上、日本海側港湾機能の強化
- ・2面活用型国土を支える南北国土軸の強化

#### ◇ゴールデンルートから昇龍道へ誘う、観光資源・拠点のネットワーク化地域の魅力の磨き上げ

- ・昇龍道エリアの多種多様な自然景観や歴史・文化の発掘・活用・磨き上げの推進
- ・2020年のオリンピック東京大会等の開催効果を取り込むルート開発
- ・名古屋、高山、松本、金沢などの昇龍道エリアの高質な観光資源への円滑なアクセシビリティの充実
- ・外国人旅行者が移動・滞在しやすい環境の整備や地域のおもてなしの醸成
- ・新東名・新名神や東海北陸道、東海環状道、近畿道、中部縦貫道、中部横断道、三遠南信道、伊豆縦貫道など、中部圏から北陸圏に至る高速道路ネットワークの強化
- ・道路、鉄道、港湾、空港などマルチモーダル間の連結性向上

#### ◇大規模自然災害等に対する国土の安全性の向上

- ・複数ネットワークによる南北軸の多重性・代替性の確保
- ・太平洋側と日本海側の両側で相互補完する港湾機能の強化
- ・災害に強い物流ネットワークの構築

#### ◇分水嶺を跨いだ自然環境保全への取組の推進

- ・上下流域が連携した環境教育の促進
- ・広域的な森林管理を支える林道ネットワークの形成
- ・中部山岳エリアにおける多様な生物環境の維持・保全
- ・絶滅危惧種の保護および外来種の駆除等による生物生息環境の保全
- ・広域的ミティゲーションの推進



## 基本戦略4：産業と共存し特色ある自然環境・景観を備えた地域づくり

### ■ものづくり技術を応用した良好な環境・景観の形成 **環産交**

#### ◇ものづくり技術から派生する環境技術の活用

当地域のものづくり産業が培った技術を、自然環境改善や保全への技術に応用するなど、環境技術でも先進地域として、その技術を活用していく。

#### ◇ものづくり精神を活かした景観づくり、観光地づくり

中部のものづくりの根幹といえる、時間を掛け、試行錯誤の上、高質なものを創り出すプロセスを景観の創出に活用し、それらを観光資源として醸成していく。

### ■国土の健康を回復する循環型の社会の構築 **環産**

閉鎖性水域である伊勢湾に注ぐ流域圏において、水源地である**中山間地の森林や農地の保全**を図り、適切な水環境の整備による、水の安定供給の確保と、健全な水循環の確保を図る。

また、社会経済活動がもたらす排水、廃棄物や、土砂の適切な管理を進め、伊勢湾等の閉鎖性水域をはじめ、中部を取り巻く水辺の環境保全を図る。

さらに、森林や農地については、その管理・保全のための基金等を原資とした投資を行うなど、雇用創出や農林生産物の6次産業化などを促進し、地域へ還元していく**循環型農林業**を推進する等、**適切な国土管理**を行う。

### ■快適で人と環境にやさしい社会の形成 **環産暮**

住宅や公共施設等、生活面での省エネルギー化を推進していくとともに、環境負荷の少ない暮らし方を実現していく。

環状道路やバイパス整備といった交通基盤の整備を推進して行くとともに、既存ネットワークの使い方を工夫し、円滑かつ安全な交通サービスの実現に向けて「賢く使う取組」を推進する。

また、公共交通機関の利便性の向上やロボット技術等を活用した次世代型のエコモビリティの導入等により、利便性を損なうことなく環境負荷を低減する技術とライフスタイルを形成する。

### ■美しい風土・風景と良好な景観の創造 **環**

中部が有する美しく、多種多様な自然環境について、維持保全していくとともに、それらの自然景観を未来へ継承するための取組を進める。

また、歴史的なまちなみや、都市景観など、地域の魅力を高める良好な景観を意識したまちづくりを進め、美しい風土づくりを行う。

加えて、水辺に興味を持つ市民や企業、行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と新しい賑わいを生み出す「ミズベリングプロジェクト」を推進する。

### 具体的な取組方策例（主な取組内容）

#### ■ものづくり技術を応用した良好な環境・景観の形成

##### ◇ものづくり技術から派生する環境技術の活用

- ・FCVやPHV等の技術活用による環境負荷軽減の促進
- ・ものづくり産業における製造工程の省エネ化促進
- ・有機廃棄物の排出抑制

##### ◇ものづくり精神を活かした景観づくり、観光地づくり

- ・工場、運河などの産業遺構の保全および調和のとれたまちなみ形成
- ・歴史的風致維持向上計画の策定の促進および歴史的建築物の保全
- ・ものづくり精神から生まれる効率性の高い整然とした都市構造の形成
- ・川辺、海岸部の景観保全

#### ■国土の健康を回復する循環型の社会の構築

- ・森林資源の循環利用と森林の持つ多面的な機能の維持・向上
- ・都市と一体的な流域・水源地域の保全
- ・雨水浸透等の地下水かん養や下水高度処理水の河川還元など健全な水循環系の構築
- ・総合的な土砂管理の推進
- ・湖沼や都市河川の浄化、河川流況等の改善、多自然川づくりなど河川環境の保全・再生
- ・閉鎖性水域の水質改善
- ・離岸堤などの整備や養浜による海岸の保全
- ・廃棄物の排出抑制・再利用・再資源化
- ・漂流・漂着ゴミ対策の推進
- ・自然エネルギーや下水汚泥処理等による発生エネルギーの有効活用、省エネルギー型建築物の普及促進

#### ■快適で人と環境にやさしい社会の形成

- ・自動運転システムを導入した次世代型交通システムの開発
- ・道路ネットワークの強化・円滑化や幹線道路における環境施設帯等の整備
- ・賢く容量確保(ETC2.0で賢く使うユーザーの優遇と料金所革新)
- ・賢く事故削減(ビックデータを活用して、潜在的な危険箇所を改善)
- ・地域の主要渋滞箇所における渋滞対策の推進
- ・公共交通機関の利便性向上
- ・環境負荷の少ない新たな移動支援
- ・大気・騒音・振動の沿道環境の改善
- ・自転車利用環境の整備・促進
- ・低公害車の普及促進とエコドライブの支援、物流のグリーン化推進、エコエアポートの推進

#### ■美しい風土・風景と良好な景観の創造

- ・伝統的街並み保全・再生、歴史的建造物の保全
- ・沿道や水辺の景観形成や地域景観と調和した公共施設の整備
- ・幹線道路の無電柱化や屋外広告物等の適正化、景観計画区域の街並みの保全



## 基本戦略5：濃密で重層的な対流で、人と人がつながり心豊かに生きる地域づくり

### ■中部の重層的な地域構造が対流を呼び起こす地域整備 **交** **暮** **産**

中部の地域構造は、国際中枢都市の名古屋を中心に、

- ・母都市型：西三河地域などに広く分布する、製造業等に特化し、財政的な優位性も保った自立した都市、また名古屋の衛星都市として高次都市機能を有する都市
- ・生活圏型：生活圏域の中心都市を核に周辺の市町村とつながり、生活圏を形成する形
- ・小都市群型：複数の小都市がお互いの持つ都市機能を補完することで、高次な都市機能を共有する形の都市圏域

など、自立した母都市や都市・生活機能などを補完しあうことで、圏域を形成する多種多様な特徴を有する多極分散型構造を形成する。

また、自動車産業、航空機産業、セラミックス産業等、伝統的なものづくり産業からの技術連携等の結びつきも強く、生活や産業面でのつながりが強い地域構造を形成する。

### ◇中部の特性を最大限に発揮する、「コンパクト+ネットワーク」による暮らしやすい地域づくり

人口減少に歯止めをかける持続的な地域づくり。コンパクト+ネットワークは、質の高いサービスの提供や人・モノ・情報の交流・出会いを活性化させ、新たな価値を創造していくことにつながり、中部の多極分散型地域構造を効果的に活用していく。

中山間地域等では、商店や診療所など日常生活に不可欠な施設や地域活動を行う場を歩いて動ける範囲に集め、周辺集落と地域公共交通などネットワークでつないだ「小さな拠点」を形成。さらに、都市機能のサービスを提供できる適切な人口規模を確保するため、各地域をつなぐ広域連携型ネットワークを形成していく。また、高次都市機能が集積した母都市と周辺の都市、小都市群や生活圏群において、地域公共交通などのネットワークを強化し、各都市・圏域が有する資源の相互利用を進め、生活機能などのネットワークの向上を図る。

これらの地域特性に応じた「コンパクト+ネットワーク」を確立することで、人・モノ・情報の交流を活性化させ、賑わいを創出し、新たな地域の価値を創造していく。

### ◇産業機能のネットワーク形成

中部の特徴である自動車産業、航空機産業、セラミックス産業等のものづくり産業や、農林水産業などを軸につながる都市圏を、交通インフラやICT技術の活用により、人・モノ・情報の対流を活性化させ、中部の各種産業の付加価値のさらなる向上を図る。

### ◇都市圏や生活圏のさらなる連携、融合した、9つの圏域により創り出される中部

中部では、コンパクト+ネットワークにより形成される都市圏や生活圏をさらに高速交通ネットワークで結びつける、9つの圏域を形成することで、各地域の持つ地域特性が融合した、より大きな魅力を創造していくとともに、時代の変遷とともに失われた地域のつながりなどを復活させ、新たな対流を呼び起こすことなど、人・モノ・情報の新たな広域的な対流により、中部のさらなる魅力向上を図る。

## 具体的な取組方策例(主な取組内容)

### ■中部の重層的な地域構造が対流を呼び起こす地域整備

#### ◇中部の特性を最大限に発揮する、「コンパクト+ネットワーク」による暮らしやすい地域づくり

- ・区画整理、再開発などによる都市機能のコンパクト化
- ・圏域の複数の都市が都市機能を分担・連携する広域連携型コンパクトシティ
- ・圏域の規模に応じて都市機能維持に必要な都市圏形成に資する広域道路ネットワークの整備
- ・街区ストックの維持
- ・地域公共交通システムの高度化

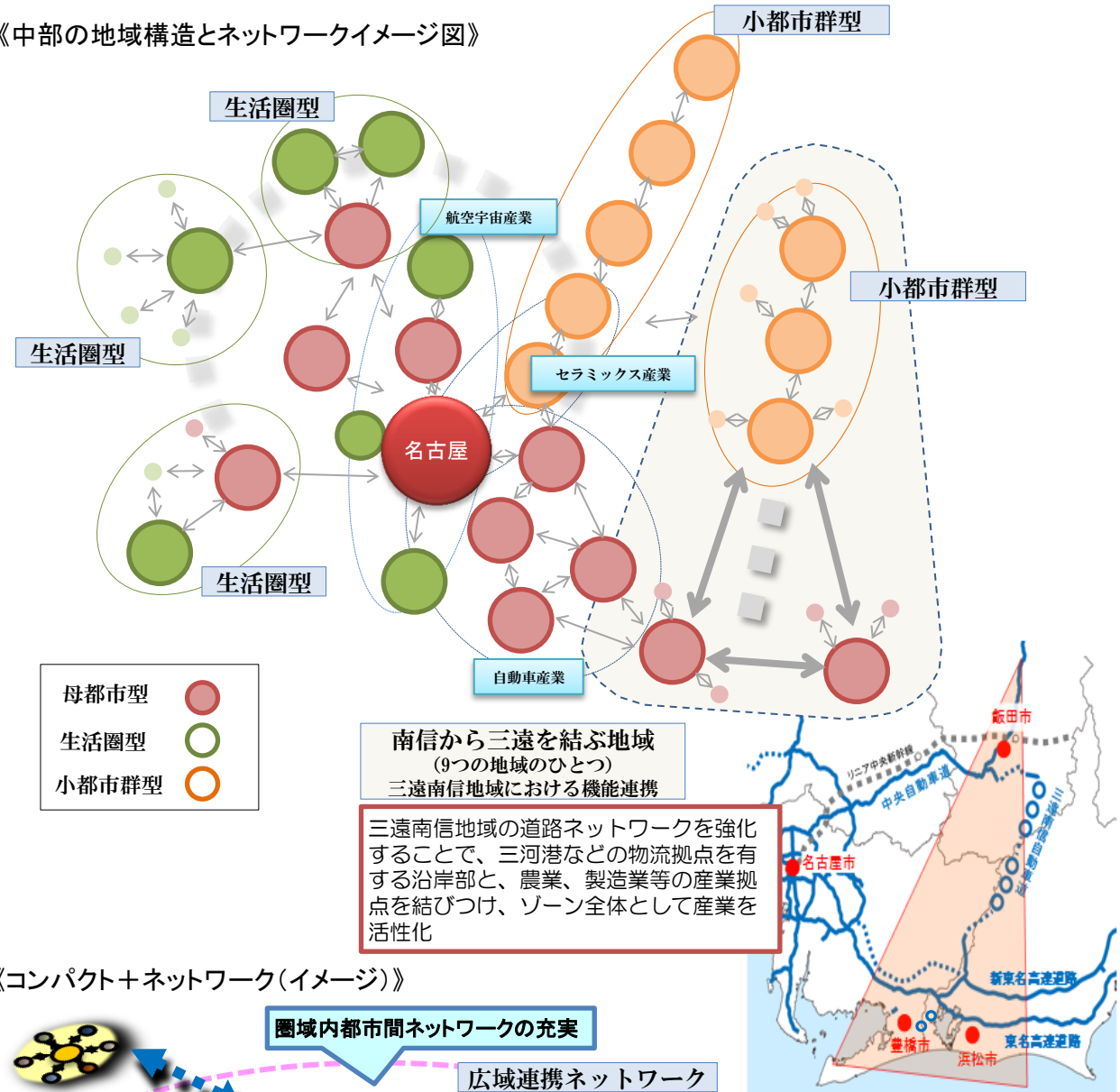
#### ◇産業機能のネットワーク形成

- ・地域間交通ネットワークの形成
- ・道路渋滞対策など物流機能の高度化

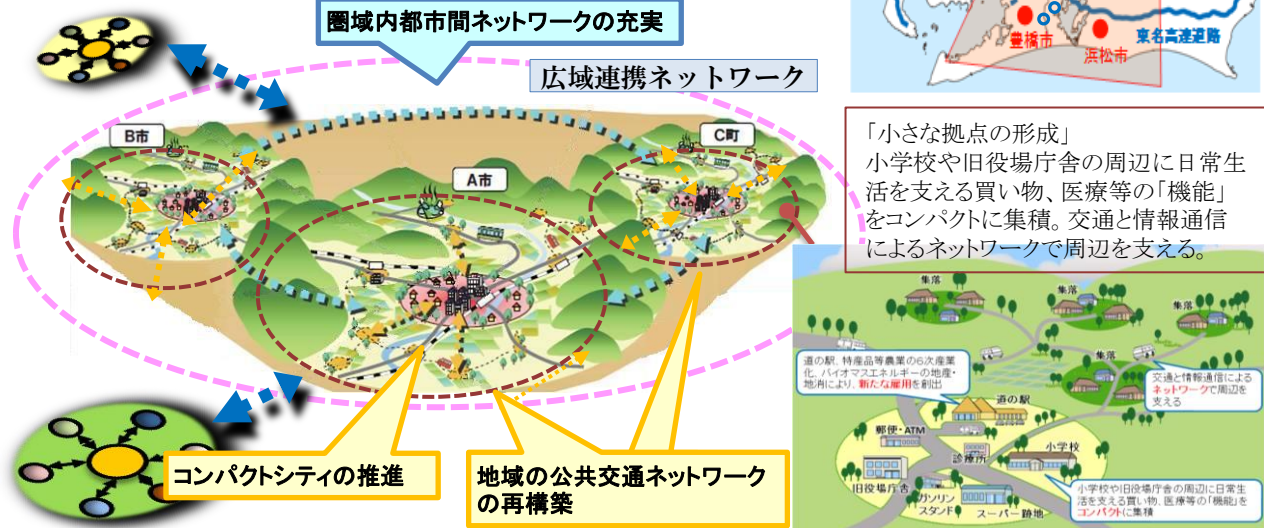
#### ◇都市圏や生活圏のさらなる連携、融合により創り出される中部

- ・広域高速交通ネットワークの機能強化
- ・ICTを活用した既存ネットワークの最適利用

《中部の地域構造とネットワークイメージ図》



《コンパクト+ネットワーク(イメージ)》



**安** :安全・安心    **産** :産業競争力    **交** :交流連携・観光    **環** :環境・景観    **暮** :暮らし

## 基本戦略5:濃密で重層的な対流で人と人がつながり心豊かに生きる地域づくり

### ■交通ネットワークにより生みだされる自由時間による多様な生活の実現 **暮**

交通機能の充実化などを積極的に推進し、空間的・時間的・経済的にゆとりのある中部の特性を最大限に発揮できる暮らしやすい地域づくりを進め、多様なライフスタイルを実現させ、心豊かな生活を創出する。

### ■「道の駅」による拠点の形成 **交 暮**

ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩施設として生まれた「道の駅」の基礎機能向上を図るため、観光や移住など地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」や、産業振興や福祉など地域の元気を創る「地域センター」として、機能強化を図ることで、まちの物産や観光資源を活かして、ひとを呼び、地域にしごとを生み出す核へと進化を遂げ、「道の駅」による地方創生拠点の形成を図る。

### ■農林水産業の維持活性化・高度化 **産 交**

ライフスタイルの多様化による田園回帰の流れを取り込むとともに、とりわけ中部地方で盛んな農業をはじめ、林業や水産業などの一次産業の維持と、それらを実現するための担い手の確保や、効率化、高度化を図る。

### ■若者や女性、高齢者、外国人の心豊かで多様な暮らしの実現 **暮**

異次元の高齢化が進展する中、**地域コミュニティが強く、子供を産み育てやすい中部の地域特性**とその魅力を対外的に発信するとともに、女性の社会参画の中核地域を形成する。

また、**若者が愛着と憧れを持ち、住み続けたい地域づくりを進め、次代の地域の活力を担う人づくり**を推進していくとともに、高齢者や外国人もいきいきと社会参加するための取組を推進する。

さらに、当地域に暮らす事でもたらされる精神的な豊かさを享受し、次代の担い手の生活の質の向上を高めていく。

これらを進めることで、豊かな暮らしを実現するために必要な、人が生まれ、育ち、集う地域づくりを推進する。

### ■ICT・ロボット技術を積極的に活用した社会システムの構築 **産 暮**

ものづくり技術で培ったICTや、高度なロボット技術を、暮らしの分野に積極的に応用し、誰もが暮らしやすい、効率的で高質な社会システムを構築する。

## 具体的な取組方策例(主な取組内容)

### ■交通ネットワークにより生みだされる自由時間による多様な生活の実現

- ・豊かな自然と市街地が融合した、住みやすく、憧れられるまちづくり
- ・社会の成熟化に伴うライフスタイルニーズの多様化への対応
- ・二地域居住や帰農など多様化するライフスタイルへ対応する受入環境の整備
- ・ゆとりある社会における人と車、自転車等が共生する交通安全にも配慮した地域づくり

### ■「道の駅」による拠点の形成

- ・地方創生の拠点となる先駆的な「道の駅」の取組を関係機関が連携し、計画段階から総合的に推進
- ・トイレ等の適切なリニューアルなど、基礎的なサービス水準の確保  
(多機能トイレ、無料公衆無線LAN等を標準装備、EV充電器は、利便性を考慮し設置を促進)



### ■農林水産業の維持活性化・高度化

- ・6次産業の活性化や、花きなど高付加価値な農産品のブランド化による海外展開
- ・農業の効率化を実現する土地集約、大規模営農支援
- ・森林資源の循環利用による森林の多面的機能の維持・向上
- ・流域圏保全による漁場保全
- ・農林水産物の物流を支える道路ネットワークの強化

### ■若者や女性、高齢者、外国人の心豊かで多様な暮らしの実現

- ・公共交通機関の利便性向上
- ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーの導入による高齢者、子育て世代、外国人等への対応
- ・豊かな人と人との繋がりを実現するコミュニティの再構築
- ・スマートウェルネス住宅・シティの実現

### ■ICT・ロボット技術を積極的に活用した社会システムの構築

- ・交通、医療、教育、防災など、広範な分野でICT・ロボット技術を活用するためのインフラの形成

# 第5章 9つの地域の連携、融合により創り出す中部

まんなかビジョンは、我が国の東西方向、南北方向の連携、また世界各国との連携、さらには首都圏や近畿圏、北陸圏と中部圏を結ぶ様々な地域の役割と発展を重視します。

そのため、県境を越え、山から海までの河川流域や古(いにしえ)からの街道の繋がりになどにより、都市、産業集積地、中山間地域の新たな交流連携を生みだし、9つの地域の広域連携による「融合」により、中部地方の将来像の実現に向けた持続的な発展を促進します。

<b>安</b> :安全・安心	<b>産</b> :産業競争力
<b>交</b> :交流連携・観光	<b>環</b> :環境・景観
<b>暮</b> :暮らし	

## ① 駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■日本の国土・経済の大動脈を支える地域づくり

リニア中央新幹線と高速道路の多重化による東西交通の代替性を活かすとともに、内陸フロンティア機能や国際空港を積極的に活用し、国土の防災・減災(老朽化対策)と日本経済に貢献する地域を目指す。

【地域の強み・弱み】

○日本の社会経済活動を下支えする地域・日本の大動脈を有する  
×自然災害が社会経済活動に与える影響が大きい地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆災害に強い安全・安心基盤を整備された地域 **安**
- ◆内陸のフロンティア構想など、地域ポテンシャルを活かした産業経済集積の強化 **産**
- ◆静岡空港や清水港などをゲートウェイに、南北連携を強化する中部横断道など交通ネットワークの形成により、全方向的に交流・活発な地域 **交**
- ◆国内外との人や物の交流を一層活発化させ、当地域の様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域 **交**

## ② 南信から三遠を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■国土の保全と多様な交流を担う地域づくり

水源地域から下流域にわたり、地域を一体的に保全するとともに、それらの取組を通じ、県域を越えた地域間交流の活性化による豊かな地域づくりを目指す。

【地域の強み・弱み】

○国際物流、交流拠点を有する地域  
×国土保全メカニズムの脆弱化が懸念される地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆総合的な土砂管理の取り組み、多様な生態系等の保全等による環境にやさしく災害に強い地域 **安環**
- ◆三遠南信道の整備により、物流拠点・三河港など太平洋沿岸と内陸部、並びにリニア中央新幹線駅長野県駅との高速交通ネットワーク強化を図り、人や物の交流が活発な地域 **交**
- ◆環伊勢湾地域の各拠点都市や各国際ゲートウェイとの連携強化により地域の魅力と成長力を高めるモデル圏域 **交**

## ③ 名古屋都市圏一帯を取り巻く地域

【地域づくりのコンセプト】

■世界最強都市圏を創出する地域づくり

リニア中央新幹線をはじめ、高速交通網の連携・連結強化を背景として、国際競争力の高い産業集積地を目指すとともに、文化や観光交流の中核拠点としても成長する。

【地域の強み・弱み】

○我が国経済の牽引地域・ものづくり産業の集積地で我が国経済を牽引  
×自然災害への防災・減災を促進すべき地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆災害に強い安全・安心基盤を整えた地域 **安**
- ◆東海環状道や名古屋環状2号など都市圏環状道路や、東西軸の新東名名神高速、人流物流拠点のリニア中央新幹線駅や中部国際空港、名古屋港など高速交通ネットワークで結ばれた、国際戦略拠点の中心地域 **交**
- ◆企業進出や宅地開発、新たな産業が創出される国際的に強いものづくり産業が発展した地域 **産**
- ◆様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域 **交**

## ④ 東海と北陸を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■日本海と連携した新たな交流圏を構築する地域づくり

昇龍道プロジェクトを基軸とした日本海側の魅力的な観光資源との融合により、地域の魅力を高め、広域交流の活性化を目指す

【地域の強み・弱み】

○北陸経済圏との連携を支える地域  
×南北交流軸が十分ではなく、自然災害に脆弱な地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆太平洋側の中部国際空港や名古屋港、また日本海側の富山伏木港や富山空港、またリニア中央新幹線駅など人流物流拠点と東海北陸道など高速道路のネットワークが強化され産業立地等の一層の促進により交流が活発で活力あふれる地域 **産**
- ◆揖斐川上流域等の水源を保全し上下流域が交流する地域 **環交**
- ◆多様な観光ルートの提供により、地場産業や観光産業が活性化される地域 **交**

## ⑥ 伊勢湾・三河湾流域

【地域づくりのコンセプト】

■伊勢湾の流域圏の保全と連携を育む地域づくり

伊勢湾の上下流域の多様な主体が環境保全に向けた取組を推進するとともに、循環型社会の構築に向けた、上下流域連携の活性化を目指す。

【地域の強み・弱み】

○伊勢湾流域としての一体感を持った地域  
×伊勢湾流域圏としての自然環境の荒廃が懸念される地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆流域圏の健全な水・物質循環の構築を目指す地域 **環**
- ◆生物の生息・生育する干潟、浅場、藻場等の保全・再生・創出等を行い、多様な生態系と漁業生産の回復 **環**
- ◆人々が水辺で親しみ安全で憩い・安らぎを得られる空間を拡充される地域 **交暮**

## ⑦ 富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■中部の象徴的な観光資源の国内外の情報発信力を高める地域づくり

富士山をはじめとした多様な観光資源を有するポテンシャルを活用し、国内外の認知度を高め、持続的で安定的な観光圏域による地域活性化を目指す。

【地域の強み・弱み】

○富士山をはじめとした様々な観光資源を有し、首都圏マーケットの取り込みにより活力向上が期待出来る地域  
×大規模自然災害の甚大な被害を被る恐れのある地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆伊豆縦貫道や新東名など高速ネットワークで結ばれた多様な観光ルートの提供や富士山の世界文化遺産登録の取り組みなど観光産業等の更なる人的交流の活発化を目指す地域 **交産**
- ◆地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」、また地域の元気を創る「地域センター型」の道の駅を拠点とする地域
- ◆内陸フロンティアとともに災害に強く交流が活発な地域

## ⑧ 伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■古来からの文化資源を未来に継承する地域づくり

防災・克災力を高め、古来の文化資源を守り継承し、その活用による持続的な発展を目指す。

【地域の強み・弱み】

○日本の神道文化を象徴する歴史・伝統・文化資源を有する地域  
×未成熟な交通ネットワークにより、有事の際の交通寸断の恐れを有するとともに、地域活力が低迷している地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆台風や東南海・南海地震等の自然災害に強い地域 **安**
- ◆紀伊半島を結ぶ近畿道の整備により、近畿圏や環伊勢湾地域をはじめ国内外と交流が活発な地域 **交**
- ◆世界遺産や地形・気候などの風土を活かした観光産業の更なる活性化と、新たな産業分野の創出など活力あふれる地域 **交産**

## ⑨ 長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域

【地域づくりのコンセプト】

■日本の屋根と分水嶺を美しく保全する地域づくり

雄大な自然景観を維持保全しつつ、観光資源として活用するとともに、自然災害への対応を強化し、自然を守る交流の拡大を進め、美しく持続的な水源地の形成を目指す **環**

【地域の強み・弱み】

○日本の屋根と分水嶺を介して中部と北陸を接続する地域  
×火山、土砂、豪雪の自然災害の恐れがある地域

【地域の目指すべき将来イメージ】

- ◆流出土砂の抑制、河川整備等により、様々な自然災害に強い地域 **安**
- ◆中部縦貫道や東海北陸道と空港港湾、またリニア中央新幹線岐阜県駅との高速交通ネットワークを強化、関東・北陸・東海エリアをはじめ国内外との交流が活発な地域 **交**
- ◆北陸新幹線を活用した観光産業の活性化と農林業を活かした自然体験等や滞在型観光などにみる新たな産業の創出など活力あふれる地域 **環交**

